



## 第 1743 回例会 「職場見学」 平成 25 年 4 月 15 日 (月)

紀陽除虫菊株式会社 12:30~

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「我等の生業」
3. 出席報告  
会員総数 53 名 出席者数 24 名  
前回修正出席率 50.94%

### 4. 会長スピーチ

今日は職業奉仕委員会による職場見学の日です。

ロータリーには入会時には職業分類のチェックがあり、以前は一業種一人しか入会出来ませんでしたが、今は5人まで可能となっています。

会員の職業は会員名簿に載っているので、大体分かっているのですが、実際どのような仕事をしているのか良く分かっていません。お互いに頼み、頼まれることがあるかも知れません。

会員の職業紹介のカタログ造りは以前より依頼していますが、近々締め切られます、未だ提出されていない方は至急提出して頂ける様お願い致します。

今日は職業奉仕委員会の主催で、小久保会員の御好意により蚊取り線香他の製造工場見学が実現しました。色々新しい発見や参考になる所があると思いますので、また機会がありましたらどこかの工場を見学させて頂きたいと思います、有難うございました。

大手の出来ない市場の要求に応じた多品種少量生産と従業員の誠意のこもった対応に感心致しました。

会長 花田 宗弘 君



### 5. 幹事報告

幹事 中西 秀文 君

○例会臨時例会のお知らせ

岩出RC 5月2日(木)→5月2日(木)  
19:00~早朝例会 (太極拳)  
ホテルいとう駐車場 (芹菜/朝食)  
5月23日(木)→5月26日(日)

家族親睦日帰り例会 姫路・神戸方面

○休会のお知らせ

和歌山城南RC	5月2日 (木)
和歌山東RC	5月2日 (木)
有田RC	5月2日 (木)

### 6. 職場見学 紀陽除虫菊株式会社 (海南市下津)



紀陽除虫菊株式会社の創業は、明治43年(1910年)。1世紀以上にわたり、蚊とり線香の製造と販売を手掛けてきました。近年では、創業当時の伝統の製法に独自の創造力という新たなエッセンスを加え、さらなる進化を遂げています。人々をもっと健康にし、そして暮らしをもっと快適にしたい。そんな想いのもと生産ラインを刷新し、研究開発にも注力し、既存の商品に新たな付加価値をプラスした画期的な商品を続々と誕生させています。「伝統があるからこそ、成し遂げられる先進」、この独自の強みを持って、社会に広く必要とされる企業です。



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：花田 宗弘 幹事：中西 秀文 SAA：那須 正志



## ニコニコ・BOX

小久保 好章君 本日は当社へ職場見学において下さいましてありがとうございます。

# ROTARY LEADER



ロータリー・リーダー(2013年1月 第3巻 第4号)

### 会長のメッセージ

私は、1939年に生まれました。その頃、子供心にも、日本が戦争の只中にあることはわかつっていましたが、片田舎の村では、戦争中もこれといって生活に変化はありませんでした。この戦争が私にとって現実味を帯びたのが、終戦日でした。天皇陛下による玉音放送を家族と一緒にラジオで聞いたことを、今でも覚えています。天皇陛下のお言葉はとても難しく、内容を理解することができませんでした。しかし、天皇陛下のお言葉の後、ラジオのアナウンサーが日本は降伏し、戦争が終わったと告げたのです。終戦から数ヶ月が経ち、私は、日本は立ち直らなければならず、そのためには全員が一丸となって一生懸命働くかなければならないと理解していました。そしてまた、日本そのものや私たちの生活が大きく変わっていくだろうと思うようになりました。

日本の文化では、同じ目標に向けてみんなが協力して働くという考え方が重んじられてきました。戦後、日本という国は、平和と繁栄を目指して歩み始めました。日本国民全員がその目標を達成するために一丸となりました。日本社会が平和という概念を受け入れるにつれて、奉仕という概念も受け入れられるようになりました。これら2つの概念は、密接につながっています。人生の目的がほかの人に役立つことだと考えれば、周りの人たちを違う視点から見られるようになります。争ったり、闘ったりせずに、誰もが平和の中に生き、心の平穏を求めるようになるでしょう。「奉仕を通じて平和を」には、このような思いが込められています。



田中作次RI会長

### 未来が今に変わるとき

プロジェクト開始時から地域社会の人々に協力してもらうことで、プロジェクト終了後も長期的に活動を継続

アフリカ大陸には、使わずに放置された井戸が各地に存在します。善意で掘られた井戸ですが、持続可能

性を考えなかつたために、現在は使われなくなってしまった井戸です。ロータリー・クラブの関与が終わった後も未永く地域社会に恩恵をもたらせるようになりますこと、これがロータリー財団の新しいグローバル補助金における重要なコンセプトです。プロジェクトを持続可能なものとするのは、難しいことではありません。

例えばモザンビークのマプト・ロータリー・クラブは、グローバル補助金を利用した水プロジェクトにて、同国の教育省に連絡し、水や衛生の問題を抱える学校を特定する作業から始めました。最終的に選ばれたマプト郊外の小学校は、生徒数が現在の4分の1であった数十年前の施設を現在も使用しており、新しい衛生設備を必要としていました。「汚臭がひどく、水もない状態でした」と話すロータリアンのホセ・ルイ・アマラルさん。「トイレもひどく荒廃していました」クラブは学校側と必要な設備や備品について相談し、長期的な管理と維持にそれほどの手間がかからない施設をつくるため業者から見積もりを取りました。1年間の品質保証が付いた衛生設備と浄水タンクを設置し、さらに、業者が定期的にメンテナンスを行い、学校側がしっかりと監督を行うよう体制を整えました。

### プロジェクトを持続可能なものとするための

#### 5つのステップ

- ①現地でニーズ調査を実施する。問題を特定し、その解決策を探るには地域社会からの協力が不可欠。
- ②可能な限り、現地のリソース、資金源、考え方、知識を活用する。
- ③最も適切な技術やテクノロジーを採り入れる。多くの場合、シンプルなものが有用。
- ④継続的にメンテナンスが行われるようにする。
- ⑤地域社会の人々に機材や設備の使い方を教え、また現地に委員会を設置し、現地団体に委託するなどして、管理や修理のための小額の費用を徴収する。



フィリピンで実施されたグローバル補助金を利用した水システム供給のプロジェクト。第9800地区の積極的な新補助金モデルの推進のおかげで実現したプロジェクトです。

4月はロータリー雑誌月間です